

【学校の教育目標】	未来を創る「八幡っ子」の育成
-----------	----------------

育成を目指す資質・能力： 問題発見・問題解決能力

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	達成状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価
【知識及び技能の習得】	○国語科の市販テストの2学期のまとめにおいて、正答率の平均を次のようにする。 ・5年・・・85点 ・6年・・・85点	学校	○個別最適な学びの実現(指導の個別化) ○ICTを効果的に活用した授業改善	○授業者は、単元終了後に確認テストを行い、その結果を分析し、一人ひとりの課題にあった復習プリントを作成し、取り組ませる。 ○授業者は、単元に1回以上、児童にICT機器を使用させる授業に取り組む。	○単元終了後に備に応じたプリントを作成したで、3・4と回答した100% ○「単元に1回以上児童にICT機器を使用させる授業に取り組む」で100%	4 3	○引き続き指導の個別化とICT活用に取り組む。 ○進業会議で進捗状況について確認する。 ○保護者は、学校アンケートに遠慮せず、自信を持って評価してほしい。(保護者に対して)「4」評価の基準を伝えていくといいのではないかと。
		家庭	○家庭学習の習慣化	○保護者は、毎日、『読解ドリル』の決められた場所に認めるをする。	○毎日『読解ドリル』の認めをしていると回答した76%		
		地域	○算数科における基礎基本の確実な定着	○地域は週1回の寺子屋学習で、算数科のプリント学習を指導する。	○地域は週1回の寺子屋学習で、算数科のプリント学習を指導する。		
【多面的・総合的に考える力等の育成】	○総合的な学習において、授業の振り返り時に、いくつかのキーワードを与え、それらの語句を用いて表現できる児童の割合を80%以上(9%) ○学期末の児童アンケートにおける下記の項目 ・「授業の中で、級友と調べたり、考えを交流することで、自分の考えが広がったり、深まった」ということにおいて4と評価する児童の割合70%以上(68.8%)	学校	○八幡地域における持続可能な発展の発見とその解決策の探求	○授業者は「やばた学」に取り組む、地域の課題を児童に発見させ、地域の可能性について探求させる。(ESDの視点)	○授業の振り返りにキーワードの語句を用いて表現できた児童は66.7% ○「授業の中で級友と調べたり考えを交流することで自分の考えが広がったり深まったりした」で3・4と回答した児童は100%	4 3 4	○ESDの視点を明確に意識させながら、学習指導を行う。 ○3学期のまとめのゴールまでの見直しを持たせる。 ○学習で使用したデータを活用した授業計画を考える。 ○「やばた学」は、教材の発掘など大変だと思うが、学びを積み重ねていくことで、地域を見つめる目を育ててほしい。
		家庭	○ICTを効果的に活用した授業改善 ○家族の会話の促進	○授業者は、単元に1回以上、児童にICT機器を使用させる授業に取り組む。 ○家庭は、毎日その日に学校で学習したことを話題にする。	○やばた学に取り組む、その中にESDの視点を織り込みながら地域の課題を発見させ、地域の可能性について探求させた職員は100%		
		地域	○やばた学(地域学)への参画	○地域はゲストティーチャーとして授業や体験活動・探求活動に対し、学校の要請に基づいて積極的に協力する。	○単元に1回以上、児童にICT機器を使用させる授業に取り組んだ職員は100% ○毎日学校で学習したことを話題にした保護者は85% ○ゲストティーチャー(30人程度)		
【学他に向かう力、人間性等の涵養】	○学期末の児童アンケートにおける下記の項目 ・「授業の中で級友と、調べたり、考えを交流したりすることは楽しい」において4と評価する児童の割合80%以上(67.6%)	学校	○良好な人間関係の構築	○授業者は短学活を利用して、2週間に1回以上、短時間人間関係づくりプログラムに取り組む。 ○授業者は1日の授業の中で、最低1回はお互いの意見交流の場を設定する。	○「授業の中で級友と調べたり考えを交流したりすることは楽しい」で4と回答した児童は67.6%(3.4と回答した児童は91.1%) ○2週間に1回以上、短時間人間関係づくりプログラムに取り組んだ職員は100% ○授業の中で1日最低1回はお互いの意見交流の場を設定した職員は100%	3 4 4	○引き続き、人間関係づくりプログラムに取り組む、良好な人間関係の構築を図っていく。 ○クロームブックのジャムボードを活用しながら、調べたことを交流させていく。 ○発表を聞いたら、しっかりと反応をすることをお互いを認めていく。 ○事前の連絡を行いながら、引き続き協力をお願いしていく。
		家庭	○あいさつ運動の促進	○保護者は、年間2回のあいさつ運動に参加する。	○年間2回のあいさつ運動に参加した保護者は100%		
		地域	○あいさつ運動の促進	○地域は、見守り隊としてあいさつ運動に参加する。			
子ども向き改革の推進【】	○学期末の教職員アンケートで働き方改革が進んだと回答する教職員の割合を80%以上にする。	学校	○定時退行の促進	○教職員は、1週間に1回以上、定時退行する日をホワイトボードに記入し、予定日にはお互いに定時退行を促す声かけをする。 ○管理職は、毎月月初めに前月の超勤の実態を職員に提示し、超勤内容を確認しながら改善策を講じる。	○週1回定時退行日を設定し、実施できた職員は78%。 ○出勤遅延システムから毎月の超勤状況を見てみると、2学期は月平均で約32時間の超勤の実態があるが、これは1学期より約7時間減っており、少しずつ働き方改革への意識が高まっていると言える。	3 4 4	○引き続きホワイトボードに各自の定時退行日を毎週提示する。そして予定日にはお互いに定時退行を促す声かけをする。 ○引き続き管理職は、毎月月初めに前月の超勤の実態を職員に提示し、超勤内容を確認しながら改善策を講じる。 ○「よくわかる！八幡小学校」の2022年度版の作成に向けてPTAと協議しながら進める。 ○「よくわかる！八幡小学校」の2022年度版の作成に向けてPTAと協議しながら進める。 ○地域学習支援コーディネーターと連携し、引き続き学習支援の協力をお願いする。
		家庭	○「よくわかる！八幡小学校」の理解及び協力の促進	○保護者は、登校時、学校への到着時刻が7:50以降になるよう家を出発させる。	○7:50より前に登校する児童は2名で、登校時には協力してもらうことができています。		
		地域	○やばた学(地域学)の支援	○地域は学期に1回以上、ゲストティーチャーとして学習支援をする。	○学期に1回以上の学習支援(ゲストティーチャー)は30人程度であった。		